

3度目のアイラ島へ（その5）佐伯 順弘（岐阜県）

Travel planning 2017

DAY7 21th AUG ILY★DAY8 22th AUG ILY→GLA★DAY9 23th AUG GLA→MAN→ABU★DAY10 24th AUG ABU→PEK→NGO★

DAY7 (21AUG2017) ILY

0630 起床。体調は悪くない。月曜日の朝だというのに、他人から強制されることがないだけで、この爽やかな目覚めはいったいどうしたことだ。ま、これが自由な旅の喜びというものだ。のんびり身支度をしつつ、今日の行動を最終的に決めていく。今日は BRUICH LADDICH（ブルイックラディ）に行く。もちろん蒸留所である。アイラ島到着初日、キルホーマン蒸留所を視察した際にブルイックラディ蒸留所前のバス停を利用したが、日程的に駆け足で回ってしまいそうで、それを回避するためブルイックラディ蒸留所は後日にしたわけだ。

0800 準備を終え、朝食へ。いつものスコティッシュブレックファストをいただく。驚いたことに食堂入室から5分で食事がテーブルに届く。既に何日も宿泊しているので、覚えられていたのだろうか。このあたりの対応力が素晴らしい。他のホテルと比較したわけではないが、改めてボウモアホテルの素晴らしさを感じた。

0835 ホテル出発。モウモアホテルを出て、歩道を右に進む。十字路に出たら、左側の緩やかな上り坂の遠くに円形教会見える。右側の緩やかな下り坂の先には海が見える。その海が見える下り坂をゆっくり降りていく。途中で生協があり、その前がバス停である。

0845 バス停に到着し3分も経たないうちに、バスが到着。なかなかのラッキーディだ。ただ、バスがいつもと違う道から現れたのが不思議だった。それから、確か運賃は2.6GBPのはずだったと思うが、今回はなぜか2.8GBPだった。値上げか？特別車か？ま、0.2GBPについて問いただすのも面倒くさいので止めておいた。それに、バスの運転手もいい感じの人で、決してアジア人を差別したり侮ったりしていないと感じたので余計な緊張を生み

出すべきではないと判断した。朝から気分の良い状態がそういった判断をさせたのだと思う。さて、快適にバスは進み、20分ほどして目的のブルイックラディ蒸留所に到着した。バス停の目の前が蒸留所である。おそらく何人かの従業員がこのバス停を利用していることだろう。もちろん、以前アイラ島に来た時にボウモアの町まで車に乗せてくれた人のように自家用車で通勤している人もすくなくないだろうけど。

0945 ブルイックラディ蒸留所の敷地内に入る。



企業カラーとでも表現すればいいのだろうか。ところどころにパステルブルーを用いたデザインが表示がある。このパステルブルーのボトルもメジャーで、全然ウィスキーらしくないところがいい。革新的なウィスキー企業であることを感じさせる。すぐ、ショップで見学ツアーを予約する。旅日記を書きつつ、時間を待つ。

0955 ツアー料金を支払う。5GBP。(約755円) 1000少し過ぎにツアーがスタートした。

見学コースはとても充実していた。解説ポイントがところどころにあり、理解しやすかった。英語でコミュニケーションできることがいいことだと思えるのはこういう時だ。スマートフォンで翻訳もできる時代なのだから、それを活用すればよだけのこと。それでも、旅先で自分の技術でそれができるとには価値があると感じる。美しい英語でなくともすべてが完璧に理解できなくとも、最低限の意思疎通ができることは素直に楽しいことだと感じる。



いろいろな形の蒸留装置を置いてあるそうだ。一つの蒸留所で様々な味わいのウィスキーを作っているのだから、自然とそうなるのだろう。最近ジンも作っているので、蒸留所も大きくなる一方だろう。この蒸留所で作っているジンは以前も旅行記で書いた「BOTANIST：ボタニスト：植物学者」である。さらにこれも書いたことがあるが、BOTANの部分が冒探：冒険探検部と読めるので、冒探者、冒探野郎という意味をこじつけられる。つまり、これは冒険探検部公式飲料にせねばなるまいということで私的に制定した。ついでに書いておくと、冒探公式飲料として「五一わいん」、「ズブロッカ」が知られているところであるが、数年前にアイラを訪れた際に偶然出会ったボタニストを勝手に公式飲料として追加したのである。

今はもうその当時の冒探の部室もなく、冒険探検部すらなくなってしまったが、学生の時に部室のこたつで一升瓶の「五一わいん」を飲みながら、次なる冒険の話をしたり、蘊蓄ノートを書いたりしたのは懐かしい思い出である。

蒸留所見学も半ばに差し掛かった。蒸留したばかりのウィスキーは無色透明だが、それが樽の中で熟成される過程を経て、あの琥珀色の液体に変わるのである。巨大な貯蔵庫へ向かう。

貯蔵庫の中には大量のウィスキーたちが静かに眠っている。騒がしくしないというのもウィスキーに敬意を払う人々なら言われるまでもなくすることである。倉庫なのだが決して空気が淀んでいたり、湿っていたりせず人にとっても快適な環境である。



1110そして、お楽しみのテイスティングである。日本でも見かけることはあるが、あまり多くはないボトルである PortCharlotte2007（ポートシャーロット10年）を選んだ。強いがそれほどきつくないピーティな香り。思わず笑みがこぼれるのを感じる。つぎに、せっかくだからと BOTANIST もいただく。自宅にボトルはあるが、この場で飲むことに意義があるのだ。



売店にいくと大学に入学した年に蒸留された1984年のBRUICH LADDICHがあった。なかなかのお値段である。450GBP（約68000円）は道楽ではちょっと買えない。1157 帰りのバスが来るまで少し時間があるので、近くのBRUICH LADDICH mini-market へ向か

う。



小さなカフェ兼コンビニエンスストアといった感じの店だ。カフェモカ 2.4GBP (約 362 円) 実質昼食はこれだけである。朝食はしっかり摂ったし、それほどの運動量はないし、ということで、変わったものがあれば食べるが、空腹でないのに時間だから食べるなどという愚かなことはしないのだ。

1220 バス乗車。ポウモアの町へ戻る。

1257 生協で水 0.65GBP、絵葉書、切手、ウィスキーの本 12.83GBP

1300 ホテルに戻る。本日の基本ミッションは終了である。夕食まで休養。優雅な旅行なので、ガツガツ、キツキツの日程など組むわけがないのである。とりあえず、寝る。

1744 よく寝た。忘れないうちに現時点の会計をメモする。寝起きでも頭はすぐ起動する。

1830 まずは Bar に向かう。Ale を 1 パイント。



Haddock goujon(タラのフライ)を前菜として。



このスターター、軽い前菜と思ってオーダーしたら、なかなかの量。本当においしい。

1922 メインの Irish Stew。おいしい。だがしかし、ついに、この日が来たか。あまりに多くて、残ってしまった。ビールとポテトを少し。前菜が少し多すぎた。前菜とメインの両方は 1 人で注文するものではないようだ。

DAY8 (22AUG2017) 移動日 ILY→GLA

0700 起床。雲量 9、しかも黒い。昨夜あれほど食べたにも関わらず、腹具合は快調である。快腸と書くべきか。排出も十分である。

0840 朝食へ。今日は約 4 分で提供された。

0903 部屋に戻り、シャワー、パッキング。食堂で絵葉書を書く。チェックアウト。諸々込みで 485.05GBP。その後、キャビンゼロ (バックパック) を背負い、ホテル出発。今回も居心地の良い滞在であった。ポウモアホテル。まさに定宿と呼ぶべきホテルだ。葉書を投函、バスの待ち時間であたりを再度探索する。水を買う。

1126 定刻通りバス出発。アイラ空港へ。約 10 分で到着。しばらくするとチェックインが始まった。時間に余裕をもって行動しているので空港でものんびりしていたが、定刻になっても搭乗が始まらない。なんだかおかしいぞ・・・。

1344 まさかのノーフライト！グラスゴーからの便が欠航。当然折り返すアイラからグラスゴー便も自動的に欠航！次の便は 1830 になるという。日程崩壊である。帰る段になってとんでもないトラブル発生である。日本に帰ることができるのか?! 若干パニックになりそうだったので、心を落ち着かせるために「食う」。チーズバーガー&ペプシ 6.9。グラスゴーからの乗り継ぎ便、マンチェスターでの

ホテルがアウトなので、電話で状況を説明し、なんとか損害を最小限にしようと全力を尽くす。しかし、エアチケット、ホテルともに解決できず。いわゆる、終わったという状況にはまり込んだ。空港にいた人々はどんどん減り、ここにいても仕方ないのでとりあえず、ポウモアの町へ戻る。ポウモアの海を見て、心を落ち着ける。大丈夫、海はつながっている。きっと帰れる。泳ぎは得意だ。

1600 空港で情報を集めなければならないと思いなおし、空港へ向かう。雨が強くなってきた。カウンターで相談するも「Try」とか言われ、全然見通しが持てない。ただ、チケットは有効のようだ。常に満席なわけではないので、乗れるのだろう。

1745 セキュリティーチェック。1810 祈りつつ待つのみ。そして1820 あっさり搭乗。離陸。

1900 グラスゴー着。アイラ島脱出に成功。しかし状況が好転したわけではない。グラスゴー空港に到着してからも大変だった。とにかく、グラスゴーからマンチェスターへの便に乗れなかったため、日本行の便が出発するマンチェスターへの足を確保しなければならない。空港案内所でも解決せず、なぜか身体障害者サポートに回され、また案内所。いわゆるたらい回し？粘り強く状況を説明したらもう一度 Menzies というデスクで相談しろとのこと。先ほど通ったが誰もいなかったのに？もうやけくそ気味に、カウンターで誰かいないかと呼んでみる。すると係員が出てきて話を聞いてくれた。するとなんとか解決。2000 年のアメリカでの機体不具合事件以来の英語で交渉しまくりの案件であった。(後で調べたら、Menzies Aviation社は6大陸で事業を行う世界最大の航空サービス会社の1つだった。)明日の朝一でマンチェスターに行き、日本行0900のフライトに間に合わせるとのこと。追加料金などはなし。そりゃそうだ、こっちのミスじゃない。今夜のホテルキャンセルは予約会社に言えとのこと。ヒルトン15000円だったのに。すでにチェックインの時間も過ぎているので、キャンセルは難しいだろう。とりあえず、事情を説明したキャンセルのメールも送ったので、あとは成り行きというところだ。で、今夜はどこで寝ようかとまたまた案内所のおばちゃんに相談した。いくつかのホテ

ルに電話してくれたが、どこもこの悪天候のフライト混乱によりいっぱいだとのこと。しかし、この冒険らしい日本人の風貌を見て、素晴らしい提案をしてくれた。2階フロアのカフェのベンチで寝られるらしい。了解。日常茶飯事だぜ。一安心したら、急に空腹を感じた。ピンチは腹が減るものだ。すぐそばのレストランに入る。

2042 黒ビールとハギスで夕食をすます。カフェの営業時間終了まで時間をつぶしてから、目的のカフェへ向かうと、既に先客が多数。とはいえ、広い店だったので、横になれる快適なソファを確保することができた。敵の接近を警戒しながら、森で眠ることには慣れている。こういうところでもしばし体を休めることは簡単だ。

DAY9 (23AUG2017) 移動日 ILY→GLA

0245 起床。自然と目覚めた。アラームより15分早く起きた。そのおかげで、周りの旅人に迷惑をかけなくてよかった。5時間ほどは休めただろうか。葉書の投函、ネットでメールの確認。旅日記を書き、所持金の確認をする。

0445 マンチェスター行き、乗り継ぎ便の最終目的地名古屋行きのフライトのチェックインを終える。とりあえず帰ることができそうだ。

0500 搭乗ゲートに向かうためにセキュリティーチェックを通過するも、搭乗ゲートの表示がまだ出していない。昨日からの風雨が強く、嵐の様相を呈している。マジか。急に心配になる。

0630 グラスゴー発マンチェスター行きに搭乗。マンチェスターでは1時間の乗り継ぎ時間。ひたすら速足で「トランスファー」の表示を探す。

0847 マンチェスター発アブダビ行に無事搭乗。

1120 機内食。ラムとライス。好きなメニュー。

1605 アブダビ着。アブダビ時間に変更1905。

2015 アブダビ発。アブダビ時間0500北京着。北京時間に変更。0900。約1時間の駐機。

(ロンドン 0200 アブダビ 0500 北京 0900)

1000 北京発、1300 名古屋着。日本時間1400。

学生時代のような旅の終わりであった。(終)